

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



IPW
B

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:

Katsuaki **OBAYASHI**

Serial No: **10/058,041**

Filed: January 29, 2002

Title: **COAXIAL CABLE CONNECTOR**

Allowed: **05/06/2004**
Conf. No.: **2690**

Art Unit: **2833**

Examiner: **Paumen, G**

Certificate of Mailing

I hereby certify that this correspondence is being deposited with the United States Postal Service with sufficient postage as first class mail in an envelope addressed to Assistant Commissioner for Patents Washington, D.C. 20231 on:

May 18, 2004

By:

VINCENT L. RAMIK

Mail Stop Issue Fee
Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, Va 22313-1450

PRIORITY CLAIM

Sir:

Claim is hereby made on behalf of the above-noted applicant for priority under the International Convention, based upon the corresponding Japanese Patent Application 129413/2001 filed April 26, 2001.

A certified copy is attached.

Respectfully submitted,

Diller, Ramik & Wight

By:

Vincent L. Ramik, Reg. 20,663

7345 McWhorter Place; Suite 101
Annandale, Virginia 22003
(703) 642-5705

Attachment: certified copy

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日
Date of Application:

2001年 4月26日

出願番号
Application Number:

特願2001-129413

[ST.10/C]:

[JP2001-129413]

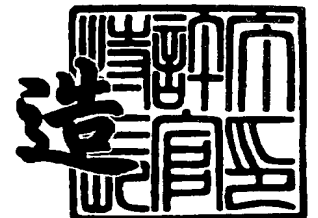
出願人
Applicant(s):

株式会社アイペックス

2002年 1月25日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2002-3001341

【書類名】 特許願

【整理番号】 13-06

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H01R 11/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都町田市原町田4丁目17番10号 ヨシトモ商事
ビル 株式会社 アイペックス内

【氏名】 大林 克明

【特許出願人】

【識別番号】 394009278

【氏名又は名称】 株式会社 アイペックス

【代表者】 篠田 盛久

【代理人】

【識別番号】 100071054

【弁理士】

【氏名又は名称】 木村 高久

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006460

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明 細 書

【発明の名称】 同軸コネクタ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 同軸ケーブルの内部導体に接続する接続端子と、該接続端子を絶縁部を介し支承する金属製のシェルとを具えた同軸コネクタにおいて、

前記シェル及び前記絶縁部の各折曲げ力によって前記接続端子を折曲げて前記同軸ケーブルの前記内部導体を前記接続端子に把持させ、これにより前記同軸ケーブルの前記内部導体と前記接続端子との電氣的接続を図るようにしたことを特徴とする同軸コネクタ。

【請求項 2】

前記接続端子は、板ばねを略くの字形状に折曲げて形成された互いに対向する一対のコンタクトから構成されるとともに、

前記絶縁部は、前記一対のコンタクトのうち一方のコンタクトを支持する絶縁部本体と、該絶縁部本体に対し他方のコンタクト側に配設された絶縁折曲げ部とから構成され、

前記シェルは、前記絶縁部本体を支持するシェル本体と、前記絶縁折曲げ部に並設されるシェル折曲げ部と、該シェル折曲げ部の側方に形成された係合舌片とから構成され、

前記同軸ケーブルの前記内部導体を前記一対のコンタクト間に配置させた後、前記シェル折曲げ部および前記絶縁折曲げ部を、前記シェル本体および前記絶縁部本体へ向け折り曲げると、前記シェル折曲げ部および前記絶縁折曲げ部の各折曲げ力によって、前記他方のコンタクトが前記同軸ケーブルの前記内部導体を前記一方のコンタクトに押しつけ、これにより前記一対のコンタクトが前記同軸ケーブルの前記内部導体を把持して前記同軸ケーブルの前記内部導体と前記接続端子とを電氣的接続し、

さらに前記係合舌片を前記シェル本体に係合させると、前記同軸ケーブルの前記内部導体と前記接続端子との電氣的接続が維持されるようにしたことを特徴とする請求項（1）記載の同軸コネクタ。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

この発明は、ノート型パソコン等の情報機器、家電製品等の小型電子機器に使用されるケーブル用中継コネクタに関し、特に、同軸ケーブルを接続するための同軸コネクタに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

ノート型パソコン等の情報機器、家電製品等の小型電子機器の内部配線には、同軸ケーブルが多数本使用されており、この同軸ケーブルは、通常、他のケーブルや基板等の各導体部と電氣的に接続されて使用される。

この同軸ケーブルを、たとえば他のケーブルの導体部に電氣的接続するには、従来、各同軸ケーブルの内部導体を、対応する他のケーブルの導体部に一本ずつ半田付けし、これにより同軸ケーブルの内部導体と他のケーブルの導体部とを電氣的接続するようにしていた。

【 0 0 0 3 】

しかしながら、この電氣的接続方法では、半田付け作業によって接続ミスが生じやすく、そのため同軸ケーブルの内部導体と他のケーブルの導体部との電氣的接続が確実に行われないことがあるという問題があった。

また、半田付け作業が煩雑であるので、接続作業に時間がかかったり、接続作業の失敗による損失が大きいという問題があった。

このような問題点を改良するため、従来から、同軸ケーブルの内部導体と他のケーブル等の各導体部とを電氣的に接続させるための装置として、同軸コネクタが提案されている。

この従来の同軸コネクタでは、シェル内に、同軸ケーブルの内部導体に電氣的に接続する接続端子を具えており、またその接続端子は、金属製の板ばねをそれぞれ折曲げ形成された一对の舌片から構成されている。

この従来の同軸コネクタでは、同軸ケーブルの内部導体をシェルの開口部に嵌挿すると、内部導体は接続端子である一对の舌片間に嵌挿するとともに該一对の舌片の弾発力によって該一对の舌片に把持されるので、これにより同軸ケーブル

の内部導体と接続端子とが電氣的接続される。

【0004】

またこの内部導体と接続した同軸コネクタは、別の中継コネクタに嵌着可能であり、該別の中継コネクタのコンタクト部に他のケーブル等の導体部に予め電氣的接続しておき、この別の中継コネクタに対し同軸コネクタを嵌着させると、上記接続端子とコンタクト部とが係合するので、これにより、同軸ケーブルの内部導体と他のケーブルの導体部との電氣的接続を図ることができる。

【0005】

このような従来の同軸コネクタによると、同軸ケーブルの内部導体と他のケーブルの導体部との電氣的接続を図る場合に半田付け作業を必要としないから、接続ミスを経済的に防止でき、これにより上記電氣的接続を確実に行うことができる。また半田付け作業を必要としないから、接続作業が簡単になり、そのため作業時間を短縮できるとともに接続作業の失敗による損失を経済的に少なくすることができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、従来の同軸コネクタでは、その接続端子は該接続端子の弾発力のみによって同軸ケーブルの内部導体を把持し、これにより同軸ケーブルの内部導体と接続端子との電氣的接続を図るから、該内部導体を把持する把持力が弱く、そのため接続端子と電氣的接続した同軸ケーブルが何等かの操作によって動かされると、同軸ケーブルの内部導体が接続端子から離脱して同軸ケーブルの内部導体と接続端子とが電氣的接続しなくなり、これによって同軸ケーブルと他のケーブル等との電氣的接続が図ることができなくなるという問題があった。

【0007】

この発明は、上述した事情に鑑み、同軸ケーブルの接続作業を簡単かつ短時間に行うことができるとともに、接続作業の失敗による損失が少なく、しかも同軸ケーブルの接続が一層確実な同軸コネクタを提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上述した課題を解決するため、この発明では、同軸ケーブルの内部導体に接続する接続端子と、該接続端子を絶縁部を介し支承する金属製のシェルとを具えた同軸コネクタにおいて、前記シェル及び前記絶縁部の各折曲げ力によって前記接続端子を折曲げて前記同軸ケーブルの前記内部導体を前記接続端子に把持させ、これにより前記同軸ケーブルの前記内部導体と前記接続端子との電氣的接続を図るようにしている。

【 0 0 0 9 】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の同軸コネクタについて、実施例で詳述する。

図 1 は、この発明に係る実施例の同軸コネクタの要部概念断面図であって、特に、同軸ケーブルを接続する前の同軸コネクタの様子を示す図である。

この同軸コネクタ（以下、単に「コネクタ」という。）1 は、図 1 で示すように、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続する接続端子 2 と、該接続端子 2 を絶縁部 3 を介して支承する金属製のシェル 4 とから構成されている。

【 0 0 1 0 】

このうち、接続端子 2 は、該接続端子 2 の拡大概念正面図である図 2 で示すように、金属製の板ばねを略くの字形状に折曲げて形成された対向する一対のコンタクト 2 a、2 b と、該一対のコンタクト 2 a、2 b のうち一方のコンタクト 2 a 側に配設された係合部 2 c とから構成されている。

また、このうちのコネクタ係合部 2 c は、図 2 の左側面図である図 3 で示すように、一対の係合舌片から構成されており、該一対の係合舌片は、後述するように、図示せぬ他の中継コネクタのコンタクト部を係合把持する。

【 0 0 1 1 】

一方、図 1 で示すように、接続端子 2 とシェル 4 との間に配設される絶縁部 3 は、接続端子 2 の一方のコンタクト 2 a を支持する絶縁部本体 3 a と、該絶縁部本体 3 a に対し他方のコンタクト 2 b 側に配設され、絶縁部本体 3 a へ向け折曲げられる絶縁折曲げ部 3 b とから構成されている。

【 0 0 1 2 】

またシェル 4 は、絶縁部 3 の絶縁部本体 3 a を支持するシェル本体 4 a と、絶

縁部 3 の絶縁折曲げ部 3 b に並設され、絶縁折曲げ部 3 b とともに折曲げられるシェル折曲げ部 4 b と、該シェル折曲げ部 4 b の各側方 (図 6 (a)) にそれぞれ形成された第一の係合舌片 4 c (係合舌片) とから構成されている。

また、シェル折曲げ部 4 b には、図 1 で示すように、その両側方に、それぞれ、第二の係合舌片 4 d (図 6 (b)) と第三の係合舌片 4 e (図 6 (c)) とが形成されており、またこの第二の係合舌片 4 d と第三の係合舌片 4 e は一体形成されている。

また、シェル本体 4 a には、前記他の中継コネクタのシェルに係合する環状の係合溝 4 f が形成されている。

【 0 0 1 3 】

一方、このような構成のコネクタ 1 と電氣的接続される同軸ケーブル 3 1 は、一般に、外被部 3 2 に圍繞された外部導体 3 3 内に、銅線からなる内部導体 3 4 と、該銅線を直接圍繞する絶縁体 3 5 とを配設している。

また、この同軸ケーブル 3 1 は、その内部導体 3 4 をコネクタ 1 に電氣的接続する際、図 1 で示すように外部導体 3 3、絶縁部 3 5、および内部導体 3 4 の各一部をそれぞれ露出させて使用する。

【 0 0 1 4 】

次に、上述したコネクタ 1 に同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 を電氣的に接続する方法について説明するとともに、コネクタ 1 の構造を詳細に説明する。

【 0 0 1 5 】

図 1 のコネクタ 1 に同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 を電氣的に接続するには、まず同軸ケーブル 3 1 を、矢印 A で示すようにコネクタ 1 側へ移動させる。

そして、図 4 で示すように、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 をコンタクト 2 a、2 b 間に配置する。

【 0 0 1 6 】

次に、図 4 の矢印 B で示すように、シェル折曲げ部 4 b と絶縁折曲げ部 3 b とを、同時にシェル本体 4 a 及び絶縁部本体 3 a へ向け折り曲げる。

すると、図 5 で示すように、接続端子 2 を構成する他方のコンタクト 2 b が、シェル折曲げ部 4 b および絶縁折曲げ部 3 b の各折曲げ力によって、同軸ケーブ

ル 3 1 の内部導体 3 4 を一方のコンタクト 2 a に押しつけるので、これにより、
一対のコンタクト 2 a、2 b が弾性変形して同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 を
把持し、これによって、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続端子 2 とが電氣
的接続する。

【 0 0 1 7 】

また、このように電氣的接続されたコネクタ 1 では、図 5 および図 5 の C C 拡
大断面図である図 6 (a) で示すように、シェル折曲げ部 4 b は、その両側方の
各第一の係合舌片 4 c により、同軸ケーブル 3 1 の絶縁体 3 5、内部導体 3 4、
コネクタ 1 のシェル本体 4 a、および絶縁体本体 3 a を覆う。

また、各第一の係合舌片 4 c の先端部は、図 5 で示すように、同軸ケーブル 3
1 の絶縁体 3 5 を支持しているシェル本体 4 a の支持部 4 k、および絶縁部本体
3 a の下方に配置される。

また、図 5 のシェル折曲げ部 4 b は、図 5 および図 5 の D D 概念断面図である
図 6 (b) で示すように、各第二の係合舌片 4 d により同軸ケーブル 3 1 の外部
導体 3 3 を覆い、また各第二の係合舌片 4 d の先端部は同軸ケーブル 3 1 の外部
導体 3 3 の下方に配置される。

また、図 5 のシェル折曲げ部 4 b は、図 5 および図 5 の E E 概念断面図である
図 6 (c) で示すように、各第三の係合舌片 4 e により同軸ケーブル 3 1 の外被
部 3 2 を覆い、また第三の係合舌片 4 e の先端部は同軸ケーブル 3 1 の外被部 3
2 の下方に配置される。

【 0 0 1 8 】

ここで、図 6 (a) の各第一の係合舌片 4 c を、図 7 (a) で示すようにそれ
ぞれ、シェル本体 4 a および絶縁部本体 3 a の幅方向内側へ向けて倒し、シェル
本体 4 a および絶縁部本体 3 a に係合させる。

すると、コネクタ 1 の概念断面図である図 8 のように、シェル折曲げ部 4 b お
よび絶縁折曲げ部 3 b を折曲げた際の各折曲げ力が保持され、接続端子 2 が内部
導体 3 4 を把持した状態を維持できるので、これにより同軸ケーブル 3 1 の内部
導体 3 4 と接続端子 2 との電氣的接続を維持することができる。

【 0 0 1 9 】

また、図 6 (b) の各第二の係合舌片 4 d を、図 7 (b) および図 8 で示すように同軸ケーブル 3 1 の外部導体 3 3 に係合把持させると、シェル折曲げ部 4 b および絶縁折曲げ部 3 b を折曲げた際の各折曲げ力が一層保持されるから、接続端子 2 は同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 を把持した状態をさらに維持することができる。したがって、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続端子 2 との電氣的接続を強固に維持することができる。

【 0 0 2 0 】

また、さらに図 6 (c) の各第三の係合舌片 4 e を、図 7 (c) および図 8 で示すように同軸ケーブル 3 1 の外被部 3 3 に係合把持させると、シェル折曲げ部 4 b および絶縁折曲げ部 3 b を折曲げた際の各折曲げ力はさらに一層保持されるので、接続端子 2 が同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 を把持した状態を一層維持することができる。したがって、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続端子 2 との電氣的接続をさらに一層強固に維持することができる。

【 0 0 2 1 】

また、このように同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と電氣的接続したコネクタ 1 の様子を、その概念側面図である図 9 に示している。

このコネクタ 1 は、図 9 で示すシェル本体 4 a の環状の係合溝 4 f を介し、前記他の中継コネクタに嵌着可能である。

この別の中継コネクタ (図示せぬ) の前記コンタクト部に、図示せぬ他のケーブル等の導体部を予め電氣的接続しておき、この他の中継コネクタのシェルを矢印 F の方向からコネクタ 1 の係合溝 4 f に嵌着させると、接続端子 2 の係合部 2 c (図 3) が前記コンタクト部を係合把持するので、これにより同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と他のケーブルの導体部との電氣的接続を図ることができる。

【 0 0 2 2 】

また、このようにして同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と他のケーブルの導体部との電氣的接続を図るこのコネクタ 1 では、上述のように、外部から加えられるシェル折曲げ部 4 b および絶縁折曲げ部 3 b の各折曲げ力によってコネクタ 1 の接続端子 2 と同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 とを電氣的接続するから、従来のように単に接続端子 2 の弾発力のみによって同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4

を把持して電氣的接続する場合に比べて内部導体 3 4 を把持する力が大きい。そのため、接続端子 2 と電氣的接続した同軸ケーブル 3 1 が何等かの操作によって動かされた場合であっても該同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 が接続端子 2 から離脱することは可及的に防止される。

したがって、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続端子 2 との電氣的接続を確実にすることができ、これにより同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と他のケーブルの導体部との電氣的接続を確実にすることができる。

【 0 0 2 3 】

さらに、このコネクタ 1 では、シェル折曲げ部 4 b の側方に第一の係合舌片 4 c、第二の係合舌片 4 d、および第三の係合舌片 3 d を形成し、これらの各係合舌片 4 a、4 b、4 c をそれぞれ、シェル本体 4 a に係合させることにより、シェル折曲げ部 4 b および絶縁折曲げ部 3 b を折曲げた際の各折曲げ力を保持するようにしているから、上述のように同軸ケーブル 3 1 の離脱が防止され電氣的接続が確実にされた同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続端子 2 との該接続を、長時間維持することができる。

【 0 0 2 4 】

なお、シェル 4 のシェル折曲げ部 4 b は、第二の係合舌片 4 d、第三の係合舌片 4 e により、それぞれ同軸ケーブル 3 1 の外部導体 3 3、外被部 3 2 に直接係合するから、この各係合によっても同軸ケーブル 3 1 が接続端子 2 から離脱することを防止でき、これにより電氣的接続が確実にされた同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続端子 2 との該接続を、長時間維持することができる。

【 0 0 2 5 】

また、このコネクタ 1 では、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と他のケーブルの導体部との電氣的接続を図る場合に半田付け作業を必要としないから、接続ミスを可及的に防止でき、これにより、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続端子 2 との電氣的接続を確実に図ることができる。そのため、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と他のケーブル等の導電部との電氣的接続も確実に図ることができる。

また、このコネクタ 1 では、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と他のケーブル

の導体部との電氣的接続を図る場合に半田付け作業を必要としないから、接続作業が簡単になって作業時間を短縮できるとともに、接続作業の失敗による損失も可及的に少なくすることもできる。

【 0 0 2 6 】

なお、上述した実施例のコネクタ 1 では、シェル 4 のシェル折曲げ部 4 b 及び絶縁部 3 の絶縁折曲げ部 3 b は、図 4 の矢印 B で示すように、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 を上方から覆うように折曲げられるものであり、また接続端子 2 は、このシェル折曲げ部 4 b および絶縁折曲げ部 3 b の各折曲げ力によって、内部導体 3 4 を上下方向から把持するように折曲げられるものとしたが、この発明のコネクタでは、シェル折曲げ部 4、絶縁折曲げ部 3 b および接続端子 2 の各折曲げ方向はこれに限定されず、たとえば、別の実施例のコネクタ 2 1 の概念平面断面図である図 1 0 で示すように、シェル 2 4 のシェル折曲げ部 2 4 b、および絶縁体 2 3 の絶縁折曲げ部 2 3 b は、同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 へ向け、それぞれ該内部導体 3 1 の両側方から折曲げられるものであり、また接続端子 2 は、シェル折曲げ部 2 4 b および絶縁折曲げ部 2 3 b の各折曲げ力によって、内部導体 3 4 を両側方から把持するように折曲げられるものであってもよい。

なお、図 1 0 では図示されていないが、シェル 2 4 のシェル折曲げ部 2 4 b は、該シェル折曲げ部 2 4 b に形成された係合舌片を介し、シェル本体に係合している。また図 1 0 の符号 2 4 d は、シェル折曲げ部 2 4 b に形成された係合舌片であって、同軸ケーブル 3 1 の外部導体 3 3 を係合把持する係合舌片である。

【 0 0 2 7 】

【発明の効果】

以上説明したように、この発明に係わる同軸コネクタでは、外部から加えられるシェル折曲げ部および絶縁折曲げ部の各折曲げ力によって、コネクタの接続端子と同軸ケーブルの内部導体とを電氣的接続するから、従来のように単に接続端子の弾発力のみによって同軸ケーブルの内部導体を把持し電氣的接続を図る場合に比べ、内部導体を把持する力が大きく、そのため接続端子と電氣的接続した同軸ケーブルが何等かの操作によって動かされた場合であっても、同軸ケーブルが該接続端子から離脱することを可及的に防止でき、これにより同軸ケーブルの内

部導体と他のケーブル等の導電部との電氣的接続を確実にすることができ、また上記電氣的接続を図る場合に半田付け作業を必要としないから、接続ミスを経済的に防止して同軸ケーブルと他のケーブル等の導電部との電氣的接続を一層確実にすることができるとともに、接続作業が簡単になるので、作業時間を短縮でき、しかも接続作業の失敗による損失を経済的に少なくすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

図 1 は、この発明に係る実施例の同軸コネクタを示す要部概念断面図であって、特に、同軸ケーブルを接続する前の同軸コネクタの様子を示す図。

【図 2】

図 2 は、図 1 の同軸コネクタの接続端子の拡大概念正面図。

【図 3】

図 3 は、図 2 の左側面図。

【図 4】

図 4 は、図 1 の同軸コネクタの要部概念断面図であって、特に同軸ケーブルを接続する動作を示す図。

【図 5】

図 5 は、図 1 の同軸コネクタの要部概念断面図であって、特に、同軸ケーブルを接続した様子を示す図。

【図 6】

図 6 (a) 乃至図 6 (c) は、いずれも図 5 の要部概念断面図であって、特に、図 6 (a) は図 5 の C C 拡大断面図、図 6 (b) は図 5 の D D 拡大断面図、図 6 (c) は図 5 の D D 拡大断面図。

【図 7】

図 7 (a) 乃至図 7 (c) は、それぞれ、同軸ケーブルと接続端子との接続が維持された同軸コネクタを示す要部概念断面図であって、特に、図 7 (a) は図 6 (a) の第一の係合舌片を同軸ケーブルの絶縁体に係合させた様子を示す図、図 7 (b) は図 6 (b) の第二の係合舌片を同軸ケーブルの外部導体に係合把持させた様子を示す図、図 7 (c) は図 6 (c) の第三の係合舌片を同軸ケーブル

の外被部に係合把持させた様子を示す図。

【図 8】

図 8 は、図 1 の同軸コネクタの要部概念断面図であって、特に、同軸ケーブルと接続端子との接続が維持された様子を示す要部概念断面図。

【図 9】

図 9 は、図 1 の同軸コネクタの概念側面図であって、特に、同軸ケーブルと接続端子との接続が維持された様子を示す概念側面図。

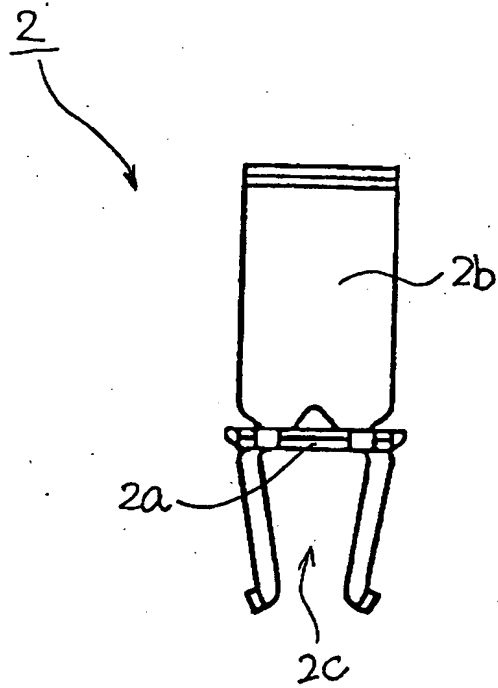
【図 1 0】

図 1 0 は、この発明に係る別の実施例の同軸コネクタを示す概念平面断面図であって、特に、同軸ケーブルと接続端子とが接続され、該接続が維持された様子を示す図。

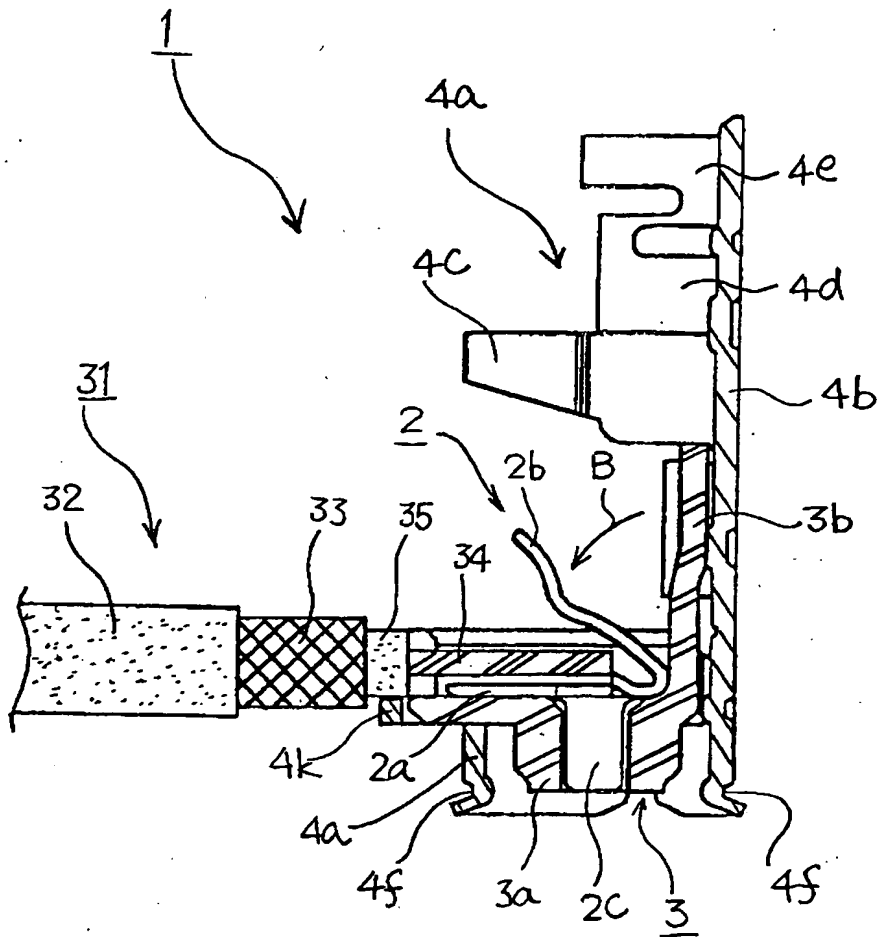
【符号の説明】

- 1、2 1 …同軸コネクタ
- 2 …接続端子
- 2 a、2 b、2 2 a、2 2 b …一対のコンタクト
- 2 a、2 2 a …一方のコンタクト
- 2 b、2 2 b …他方のコンタクト
- 3、2 3 …絶縁部
- 3 a …絶縁部本体
- 3 b、2 3 b …絶縁折曲げ部
- 4、2 4 …シェル
- 4 a …シェル本体
- 4 b、2 4 b …シェル折曲げ部
- 4 c …係合舌片（第一の係合舌片）
- 3 1 …同軸ケーブル
- 3 4 …内部導体

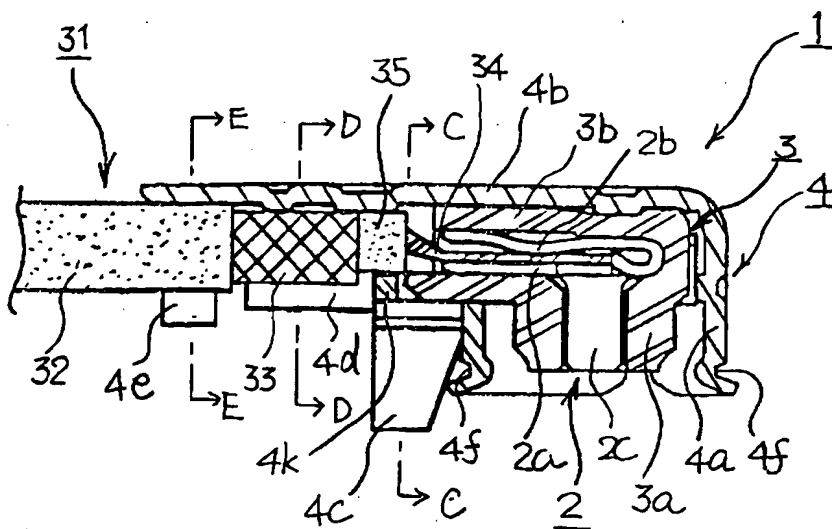
【図 3】



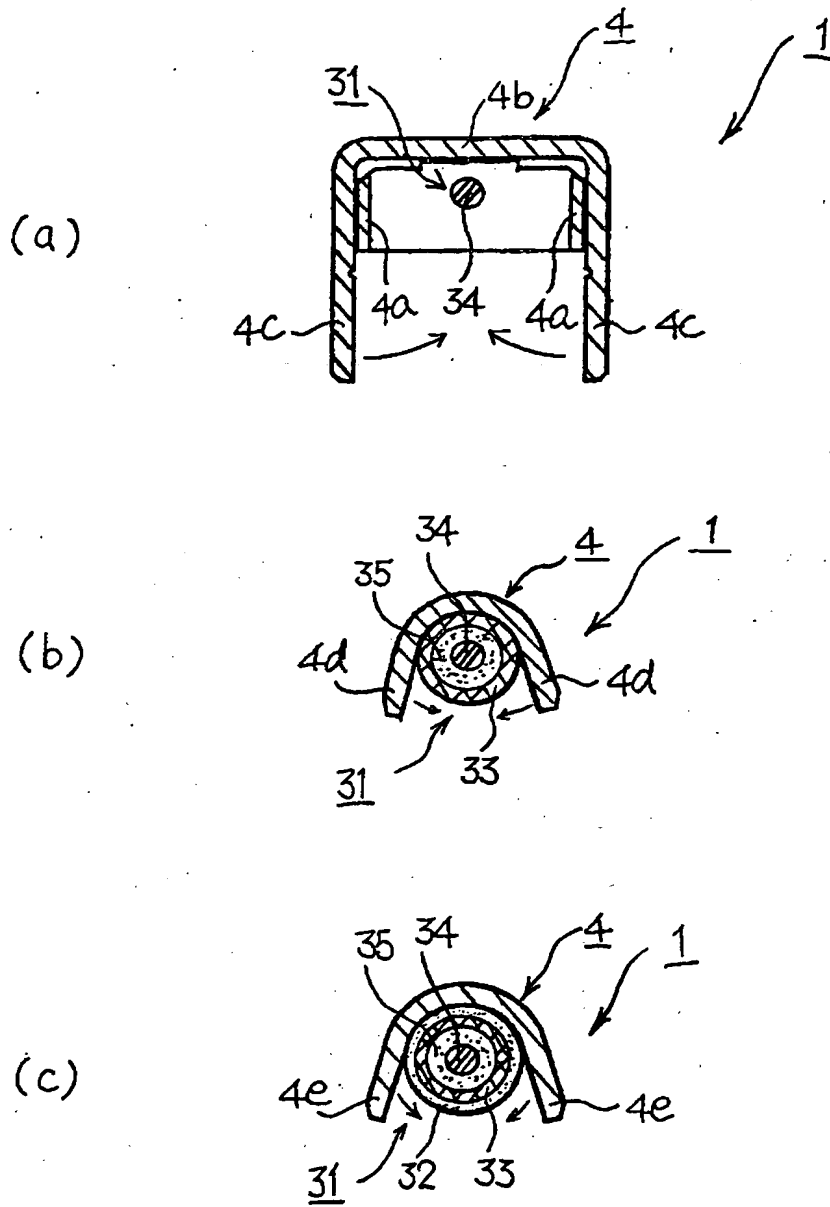
【図 4】



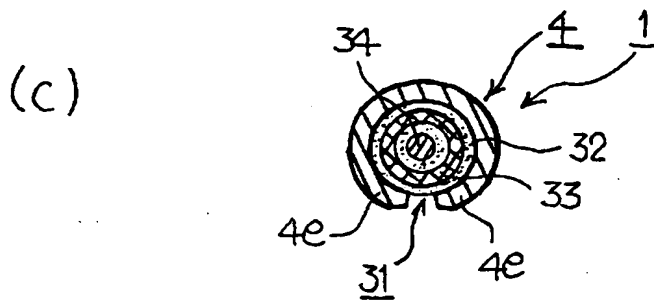
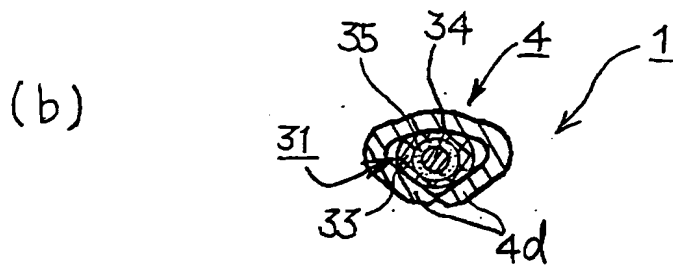
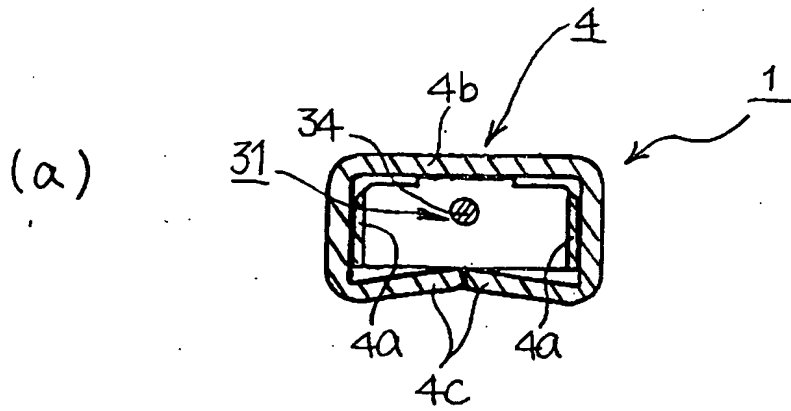
【图 5】



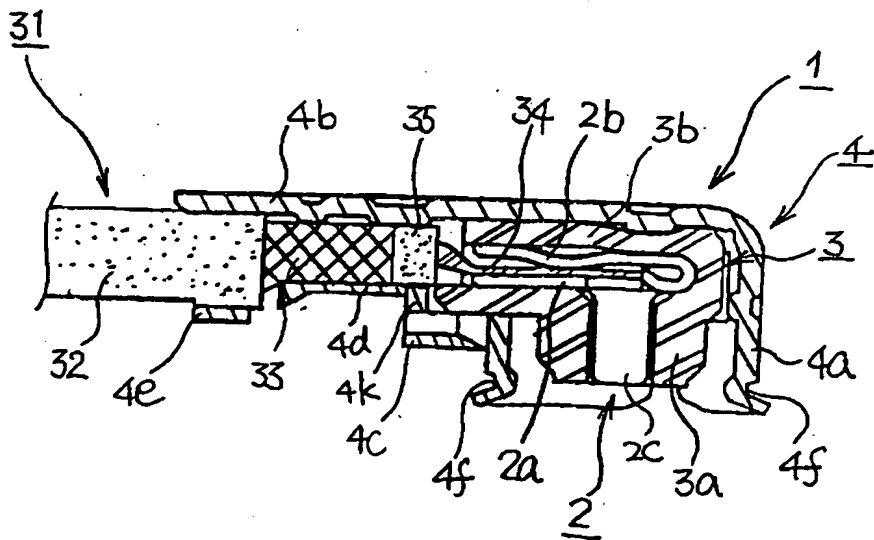
【図 6】



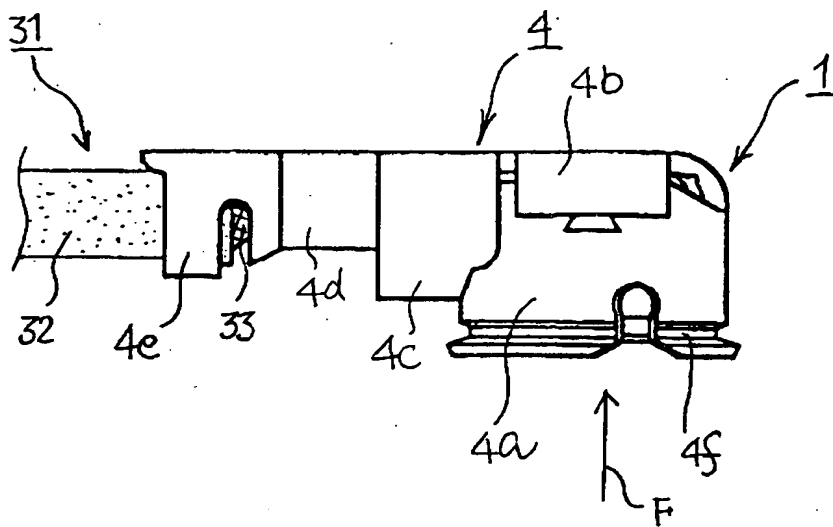
【図 7】



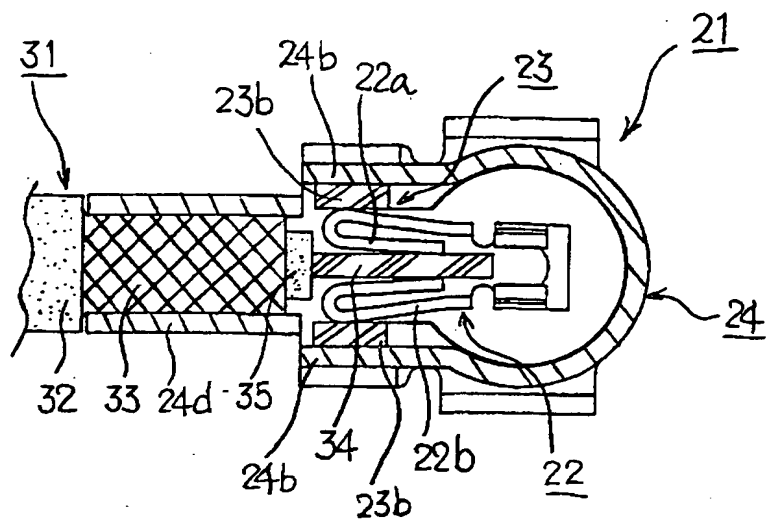
【図 8】



【図 9】



【図 1 0】



【書類名】

要 約 書

【要約】

【課題】同軸ケーブルの接続作業を簡単かつ短時間に行うことができるとともに、接続作業の失敗による損失が少なく、しかも同軸ケーブルの接続が一層確実な同軸コネクタを提供する。

【解決手段】同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 に接続する接続端子 2 と、該接続端子 2 を絶縁部 3 を介し支承する金属製のシェル 4 とを具えた同軸コネクタ 1 は、シェル 4 及び絶縁部 3 の各折曲げ力によって接続端子 2 を折曲げて同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 を接続端子 2 に把持させ、これにより同軸ケーブル 3 1 の内部導体 3 4 と接続端子 2 との電氣的接続を図っている。

【選択図】 図 4

特2001-129413

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-129413
受付番号	50100619223
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成13年 4月27日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成13年 4月26日

次頁無

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [394009278]

1. 変更年月日 1994年 4月15日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都町田市原町田4丁目17番10号 ヨシモト商事ビル
氏 名 株式会社アイペックス